

No. 761

山本書記長辞任

—社会党—

8月14日、社会党の山本書記長は中央執行委員会の席上で辞意を表明しました。理由は私行上のものとされています。折しも総評大会では政党支持が問題とされています。さらに先の参議院選挙の惨敗で党再建に頭の痛い社会党にまた一つ悩みの種が増えました。

94頁

海の子らの全国大会

—名古屋—

北海道から沖縄から、海の子供たち5,000人を集めて「第18回日本海洋少年団全国大会」が8月11日愛知県体育館で開かれました。

常陸宮さまから「次の世代のいない手となって下さい」とのお言葉に力づく宜誓。

12日には大山市入鹿池でカッター競技が行なわれ、少年達は本格的オールさばきで力づくよい競技がくりひろげられました。

138頁

自然を守ろう

—ラリー同行記—

旅のベテランたちユースホテルの会員140名が8月9日、日光国立公園尾瀬を訪れました。

近年の観光ブームと共に心ない旅行者によって、自然が荒され関係者を大いに悩ませています。

こうした中で一行は手製の灰皿を他のハイカーたちに配って山のエチケットをPRしながらの模範的ハイキングです。旅の恥はかき捨てにならないように道徳を守ってもらいたいものです。

127頁

カメラルポ

養蚕工場の村

—群馬—

まるで田園の中の工場地帯、群馬県松井田町の妙義山のふもとに出来たかいこの飼育所は近代的工場そのもの、給桑はすべてがオートメ化されています。お蚕さまとよんで宝物のように育てた昔からの伝統が科学的飼育の中で生かされています。初秋蚕が始まり静かだった五料小竹の村に活気がみなぎっています。養蚕を機械化し、企業として経営する小竹協業組合の人達は、もう農民というよりサラリーマンであり工場労働者といった様子です。

237頁